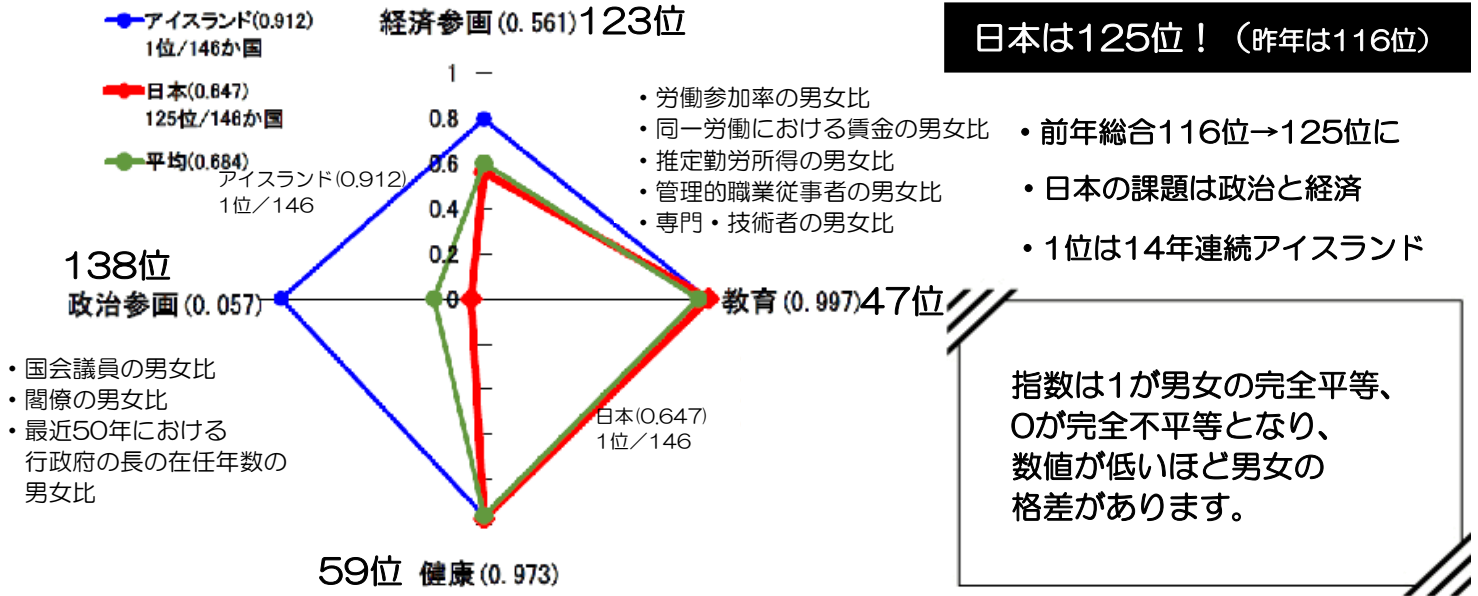


# 特集 ジェンダーギャップ指数(GGI)2023

ジェンダーギャップ指数とは、世界経済フォーラムが毎年公表している「経済」「政治」「教育」「健康」4分野の世界における男女格差の指標です。



## 男女共同参画白書とは

男女共同参画白書とは、男女共同参画社会基本法に基づき、作成している年次報告書で、内閣府男女共同参画局が毎年作成しています。

新たな生活様式・働き方をすべての人の活躍につなげるために  
～職業観・家庭観が大きく変化する中、「令和モデル」の実現に向けて～

### 01

#### 家事・育児等・働き方の現状と課題

令和3年時点でも、6歳未満の子どもを持つ夫婦では、専業主婦でも共働きでも、家事関連時間の約8割を妻が担っています（専業主婦84.0%、共働きの妻77.4%）。また、令和3年度の男性の育児休業取得率は民間企業で13.97%となりましたが、女性の取得率（85.1%）と比較すると依然として大きな差があり、育児休業取得期間も男女間で大きな差があります。女性の方が、子供が生まれたことにより、仕事との向き合い方を変え、仕事の時間を制限することが多く、共働きであっても性別役割分業を行っている夫婦が多いと考えられます。

### 02

#### 根付きつつある 新たな生活様式・働き方

令和4年度の意識調査では、家事・育児等を「自分が率先してすべきことである」と回答した割合について、50～60代では、女性が男性を10%ポイント以上上回る一方、20代では、男女差はほとんど見られませんでした。（女性70.1%、男性69.8%）若い世代の男性は、育児休業取得意欲も上の世代と比較して高く、その一方で、仕事時間を減らしたいと考える傾向が強いことなどから、長時間労働等の雇用慣行がこの実現を阻んでいる可能性が高いと考えられます。

### 03

#### 「令和モデル」の実現に向けて

白書では、「男性は仕事」「女性は家庭」という、いわゆるサラリーマンの夫と専業主婦から成る家庭を前提とした制度、固定的な性別役割分担を前提とした長時間労働や転勤を当然とする雇用慣行等を「昭和モデル」、全ての人が希望に応じて、家庭でも仕事でも活躍できる社会への変革が実現した姿を「令和モデル」と称しています。「令和モデル」の早期実現には、誰もが希望が満たされ、能力を最大限に発揮して仕事ができる環境の整備、仕事と家事・育児等のバランスが取れた生活を送ること、また、女性の経済的自立が必要とされています。